



MINING THE FUTURE

## 第98期 報告書

2022年4月1日－2023年3月31日

# 株主のみなさまへ

### 目次

Top Message	1
連結業績ハイライト	3
トピックス	5
特集 - 菱刈鉱山における自動走行重機の試験導入開始	7
連結財務諸表(要約)	8
会社情報	9
株式状況	9



株主のみなさまには、平素より格別のご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。  
ここに、当社第98期(2022年4月1日から2023年3月31日まで)のご報告を申し上げます。

### ■第98期連結決算の概要について

2022年度の非鉄金属価格については、銅価格は、中国の経済活動の停滞による需要減少への懸念などにより下落し、その後上昇に転じたものの、平均価格は前年度を下回りました。ニッケル価格は、前年度末にかけて上昇した後、景気回復に懸念が生じたことなどにより急落したものの、脱炭素化を背景に電気自動車の需要が堅調であったことなどから一時的に持ち直しました。その後供給増加の見込みなどにより下落傾向に転じたものの、平均価格は前年度を上回りました。金価格は、米国の相次ぐ政策金利引き上げなどにより下落した後、利上げ幅縮小などにより上昇したものの、平均価格は前年度を若干下回りました。

材料事業の関連業界では、電気自動車の需要が増加しており、車載用電池向け部材の需要は堅調に推移しました。一方、景気減速などに伴い中国をはじめとした世界におけるスマートフォンの出荷台数が減少したことなどにより、電子部品向け部材の需要は減少

しました。

このような状況のなか、当年度の連結売上高は、大幅な円安、ニッケル価格の上昇、車載用電池向け部材の販売が好調なことなどにより、前年度に比べ13%増加し、1兆4,230億円となりました。

連結税引前当期利益は、前年度に計上したシエラゴルダ銅鉱山(チリ)の全持分の譲渡に伴う売却益が当年度はなかったことなどにより、前年度に比べ36%減少し、2,299億円となりました。

### ■戦略の進捗状況について

資源事業では、2023年3月にケブラダ・ブランカ銅鉱山フェーズ2開発プロジェクト(チリ)で、銅バルク精鉱の生産立ち上げを開始しました。引き続きフル生産に向けてプロジェクトを推進していきます。また電池材料事業では、愛媛県の新工場の建設が順調に進捗しています。

### ■配当について

2022年度の年間配当は1株当たり205円(中間90円、期末115円)とさせていただきます。今後も、中期経営計画の「連結配当性向原則35%以上」の方針に基づき、業績に連動した形での配当を計画しています。

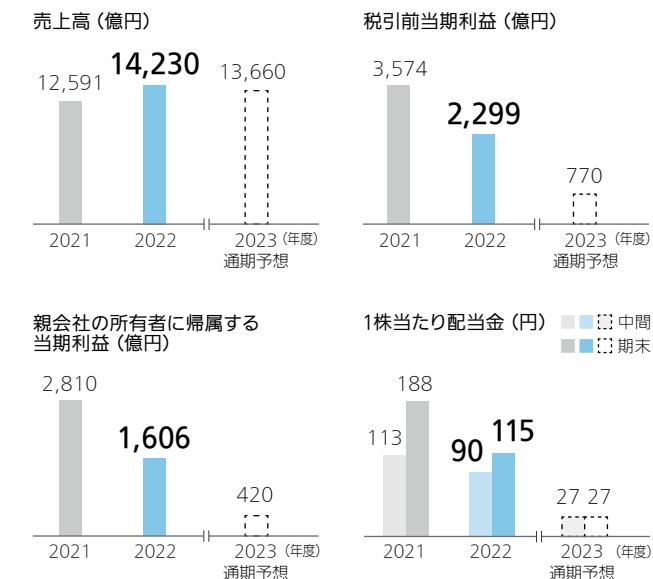
### ■株主のみなさまへメッセージ

先の見通しにくい事業環境が続いている中ではありますが、長期ビジョン「世界の非鉄リーダー」を目指し、成長戦略を推進し企業価値の最大化に努めてまいります。

株主のみなさまにおかれましては、引き続き変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 野崎 明

### 連結業績ハイライト(IFRS)



Mineral Resources



Smelting & Refining



Materials



注) セグメント間の取引が発生しており、当社の売上高として公表している数値はこれを消去した外部売上高の合計です。各事業の売上高、セグメント利益はセグメント間取引を消去する前の金額を表記しております。セグメント利益構成比は、3セグメント合計に対する比率を表記しております。  
本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が発表時点で入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

資源セグメント

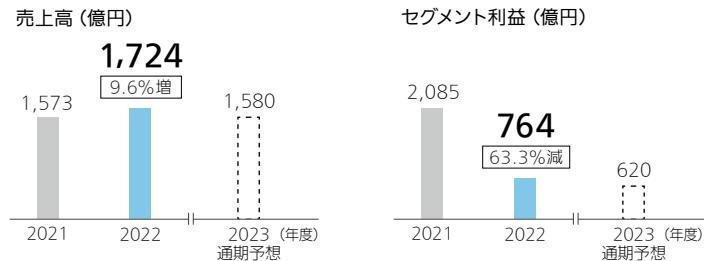
Mineral Resources

2022年度業績概要について

- セグメント利益は、為替相場が大幅な円安となったものの、銅価格の下落、前年度に計上したシエラゴルダ銅鉱山の全持分の譲渡に伴う売却益および同鉱山の持分法による投資利益が当年度はなかったこと、菱刈鉱山の持続可能な生産体制への移行に伴う出荷量の抑制などにより、前年度を下回りました。
- 菱刈鉱山は順調な操業を継続し、販売量は計画通りの4.4トンとなりました。
- モレンシー銅鉱山(米国)の生産量は、新型コロナウイルス感染症対策として実施していたミル(鉱石粉碎装置)の操業度低下策の終了などにより前年度を上回り、40万トンとなりました。
- セロ・ベルデ銅鉱山(ペルー)の生産量は、給鉱品位の上昇や選鉱場の稼働率上昇などにより前年度を上回り、44万2千トンとなりました。

今後の展望

- 菱刈鉱山は、21中計でサステナビリティ重視の操業へ移行を決定しており、2023年度の生産は4.0トンを計画しています。
- 銅では、引き続きケブラダ・ブランカ銅鉱山フェーズ2開発プロジェクトをフル生産に向けて、推進していきます。



製錬セグメント

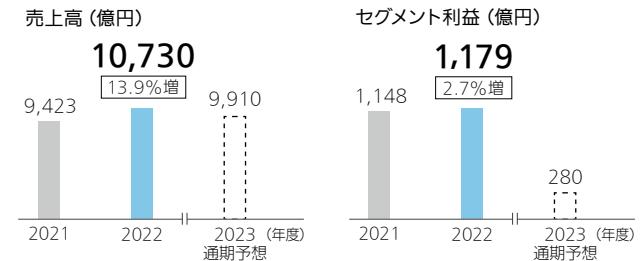
Smelting & Refining

2022年度業績概要について

- セグメント利益は、銅価格が下落したものの、大幅な円安やニッケル価格の上昇などにより前年度を上回りました。
- 電気銅の生産量および販売量はともに前年度を上回りました。
- 電気ニッケルの生産量および販売量は原料不足などの影響を被りましたが、年度末にかけ増産を図ったことで前年度並みとなりました。
- コーラルベイニッケル社(フィリピン)の生産量は前年度並みとなりました。
- タガニートHPALニッケル社(フィリピン)の生産量は、設備トラブルなどによる減産のあった前年度を上回りました。

今後の展望

- 電気銅を生産する東予工場(愛媛県)では、2023年秋に製錬設備の炉修を予定しています。
- コーラルベイニッケル社、タガニートHPALニッケル社では、引き続き安定した操業を行っていきます。



材料セグメント

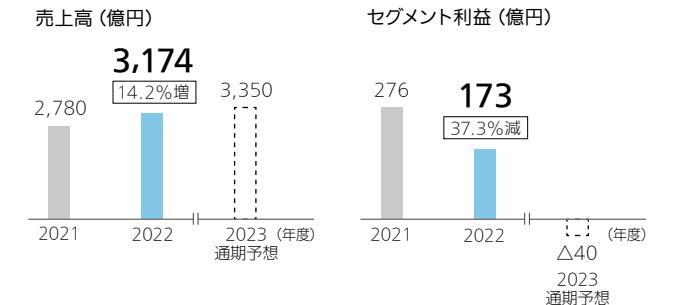
Materials

2022年度業績概要について

- 脱炭素化を背景に需要が堅調である車載用電池材料向け部材の販売は好調でした。
- 中国をはじめとした世界におけるスマートフォンなどの需要減少に伴う電子部品向け部材の減販などの影響により、セグメント利益は前年度を下回りました。

今後の展望

- 電子部品業界では在庫調整の動きが続いており、販売回復の見通しは不透明となっています。
- 電池材料では、引き続き新居浜工場の建設を進めていきます。



## いま 住友金属鉱山の現在がわかる、注目トピックスを 時系列にまとめてご紹介します。

2022年12月

コーラルベニッケル社、タガニートHPALニッケル社が環境天然資源省より計4つの賞を受賞

当社の子会社であるコーラルベニッケル社(以下「CBNC」)およびタガニートHPALニッケル社(以下「THPAL」)は、このたびフィリピン環境天然資源省より4つの賞を受賞しました。これは、プラントにおける環境管理、安全管理、地域環境保護および地域貢献などが評価対象となる金属製錬部門での受賞であり、CBNCは「2022年鉱物産業環境大統領賞」、「最優秀鉱山安全賞」第1位、「鉱業森林計画最優秀賞」第1位の計3つの賞を受賞、THPALは「鉱業森林計画最優秀賞」でCBNCに次ぐ第2位を受賞し、両社で計4つの賞を受賞しました。CBNCが受賞した鉱物産業環境大統領賞は、フィリピンの鉱物産業界において最も栄誉ある賞であり、受賞は今回で8回目となります。今後もCBNCおよびTHPALでは、周辺地域のインフラ整備、雇用の拡大、資材の現地調達などを通じた社会貢献、また、環境負荷を最小限に抑えた操業、環境事故の防止、CBNCで実現させたテーリングダムの緑化による生態系の回復など、生物多様性の保全を図りながら責任ある操業に努めていきます。



2022年12月

東予工場の乾燥設備・蒸気過熱設備の燃料をLNG化、製錬事業でのGHG削減の取り組みを加速

当社では東予工場(愛媛県西条市)の精鉱乾燥設備および蒸気過熱設備の燃料を、従来の重油からCO<sub>2</sub>排出量の少ないLNGへ変更することを決定いたしました。2023年と2025年の定期休転で、配管関係の工事とともに主要設備の改造を行い、それぞれ完成した設備から稼働させていきます。

東予工場で行っている銅製錬では、主原料となる銅精鉱を溶解する前段階として乾燥させ、またボイラーで発生させた蒸気を過熱して発電に用いています。これらの設備においては1971年の工場稼働開始以来、燃料に重油を使用してきましたが、昨今の脱炭素化の流れを受け、製錬事業におけるGHG(温室効果ガス)削減を推進するためにLNG化を行うこととしました。

当社ではこのほか、ニッケル工場(愛媛県新居浜市)においてもボイラーの燃料源の変更に着手しており、2023年に重油からLNGへの変更が完了する予定です。また、主に電池材料の中間製品の原料となる硫酸ニッケルを生産している播磨事業所(兵庫県加古郡播磨町)では、購入電力の100%を再生可能エネルギー由来の電力へ転換しています。

2022年12月・2023年3月

「WICIジャパン統合レポート・アワード2022」のシルバー・アワード(優良企業賞)および「日経統合報告書アワード2022」のグランプリ賞を受賞

当社が発行した統合報告書2022が、WICIジャパンによる統合レポート・アワード2022でシルバー・アワード(優良企業賞)を、また日経統合報告書アワード2022ではグランプリ賞を受賞しました。

WICIジャパンからは「重要な内容要素が十分に織り込まれ、完成度が高く、また財務・非財務の情報が十分に記載されており、他の企業の統合報告の範となりうる統合レポート」として、また日経統合報告書アワードでは、ESG項目のKPI設定について抽出プロセスを含めた説明があること、人権についてグループ方針を定義し「先住民の権利」をマテリアリティに設定していること、サプライチェーンを含めた改善の取り組みを記載していることなどを評価されています。

当社では今後も統合報告書の充実に取り組みむとともに、ステークホルダーの皆様との積極的なコミュニケーションと公正かつ適時・適正な情報開示に努め、企業価値向上に努めていきます。



2023年3月

健康経営優良法人2023(大規模法人部門)に認定

当社は、経済産業省と日本健康会議が選定する「健康経営優良法人認定制度」において「健康経営優良法人2023(大規模法人部門)」に認定されました。「健康経営優良法人認定制度」とは、地域の健康課題に即した取り組みや日本健康会議が進める健康増進の取り組みをもとに、特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業等の法人を顕彰する制度です。

当社では、これまでも従業員・役員の安全と健康の確保には優先的に取り組んできましたが、2022年8月に「住友金属鉱山グループ健康経営方針」を制定、同年9月には「健康経営推進規程」を制定し健康経営の推進体制とロードマップを定め、従業員・役員が心身ともに健康で最大限に能力を発揮できることが重要な経営基盤であるとの認識のもと、一人ひとりの健康維持・増進を図る取り組みを推進しています。

今後とも当社グループで働くすべての方がより健康で生き活きと働けるように、一層効果的な心身の健康維持・増進施策に取り組み、充実させていきます。



2023  
健康経営優良法人  
Health and productivity

2023年3月

ケブラダ・ブランカ銅鉱山フェーズ2開発プロジェクト-銅精鉱の生産立ち上げ開始

当社、住友商事株式会社と、カナダのテック・リソース社がチリ共和国において推進しているケブラダ・ブランカ銅鉱山フェーズ2開発プロジェクト(以下「QB2プロジェクト」)において、2023年3月に主要設備への鉱石投入、および銅バルク精鉱の生産立ち上げを開始いたしました。2023年度も、副産物の分離などを通じて銅の純度を高めた製品規格の銅精鉱生産、港の出荷設備など残る設備の建設や試運転、フル生産に向けた設備のランプアップ(生産量を徐々に増やす過程)を進め、20年以上にわたり長期安定的な生産を続ける計画です。

当社は長期ビジョンにおいて銅権益生産量30万トン/年を目標としており、QB2プロジェクトの生産開始は目標達成に向けた大きな足掛かりとなります。これからもフル生産に向けプロジェクトを推進していきます。



前回2022年4月~10月の  
トピックス

- 別子地区の新社員寮が完成
- 当社初のグリーンボンド発行
- 新しい企業広告の開始
- 個人投資家向け説明会を開催
- 統合報告書2022を発行

個人投資家向け  
説明会を開催

2022年12月に東京で個人投資家向け説明会を開催いたしました。当日は感染対策を行いながら約200名の方にお越しいただき、当社の事業戦略をお聞きいただきました。資料と動画はウェブサイトに掲載しておりますのでぜひご覧ください。

<https://www.smm.co.jp/ir/event/document/>

IR-Day 2022  
「サステナビリティ説明会」  
を開催

2022年12月にIR-Dayとしてアナリスト・機関投資家向けにサステナビリティ説明会を開催しました。近年注目が高まるカーボンニュートラルに向けた取り組み、事業展開地域での人権に関する取り組みなどを説明しています。

<https://www.smm.co.jp/ir/event/meeting/>

## 菱刈鉱山における自動走行重機の試験導入開始

菱刈鉱山(鹿児島県伊佐市)は、年間約15万~20万トンの鉱石を採掘しており、2022年度に売上計上された金の量は4.4トンとなっています。現在、鉱山で進めているDXの活動について、ご紹介いたします。

海外の露天掘りの大規模鉱山では、GPSを使用した自動運転トラックによる鉱石の運搬が一般的です。一方で菱刈鉱山は、坑内掘(地下に坑道(トンネル)を掘って鉱石を採掘する方式)の鉱山のため、人工衛星を使って位置情報を確認することはできませんし、そもそも携帯電話の電波も地下坑道には届きません。

このため、DXの一步目として、坑道内の無線通信網(Wi-Fi)の整備を順次進めています。これにより、従来は専用携帯電話(PHS)での通話しかできませんでしたが、現在は地下でも多くの地点で、事務所にいるのと同様にセキュリティの確保された通信ができるようになっていきます。そしてこの無線ネットワークを使用し、2022年度から試験導入を進めているのが自動走行重機です。

この重機のコントロールシステムは、地上の事務所に設置されており、オペレーターがモニター画面を見ながら、実際に鉱山内で操作しているのと同じ感覚で動かすことができるようになっています。このシステム導入により、坑道内での作業を坑道外からの遠隔操作に置き換えることが出来るため、オペレーターの安全性向上と作業環境改善という大きな効果が期待されます。

また、重機は360度をカメラで監視しているため、壁や他の重機への接触等の事故を起こすこともなく、事前に設定したルートではボタン一つで自動走行することも可能になっています(現在、自動走行は無人であることを確認したエリアのみで試験を実施しています)。

現在はまだ試験導入中で、鉱山外から行うことができる作業は一部に限られていますが、今後も菱刈鉱山ではDXを進め、安全性の向上やコスト削減、作業環境改善等を実現し、サステナビリティを重視した長期安定操業体制の確立に努めていきます。

※なお、菱刈鉱山は、株主様や一般の方の見学は受け入れておりません。



自動運転トラック



コントロールシステム

## 連結財務諸表(要約)

### 連結損益計算書

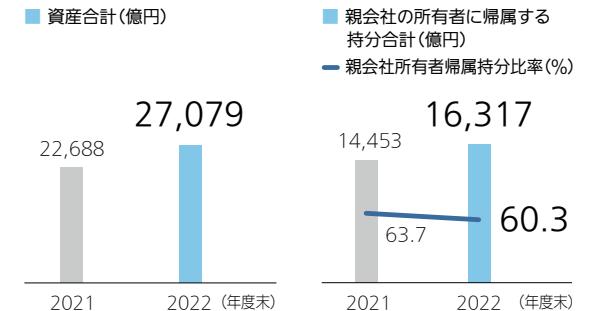
(単位:百万円)	当期	前期
	2022年4月1日~ 2023年3月31日	2021年4月1日~ 2022年3月31日
売上高	1,422,989	1,259,091
売上原価	△1,172,883	△1,001,297
売上総利益	250,106	257,794
販売費及び一般管理費	△63,997	△52,711
金融収益	29,389	31,884
金融費用	△8,596	△2,969
持分法による投資損益	36,536	57,537
その他の収益	4,672	81,850
その他の費用	△18,200	△15,951
税引前当期利益	229,910	357,434
法人所得税費用	△59,469	△58,903
当期利益	170,441	298,531
非支配持分	9,856	17,494
親会社の所有者に帰属する当期利益	160,585	281,037

### 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)	当期	前期
	2022年4月1日~ 2023年3月31日	2021年4月1日~ 2022年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	120,382	159,489
投資活動によるキャッシュ・フロー	△185,503	9,796
財務活動によるキャッシュ・フロー	49,336	△129,618
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△15,785	39,667
現金及び現金同等物の期首残高	213,977	158,373
現金及び現金同等物に係る換算差額	16,815	15,937
現金及び現金同等物の期末残高	215,007	213,977

### 連結財政状態計算書

(単位:百万円)	当期	前期
	2023年3月31日現在	2022年3月31日現在
<b>資産</b>		
流動資産	1,022,843	915,119
非流動資産	1,685,056	1,353,637
資産合計	2,707,899	2,268,756
<b>負債</b>		
流動負債	471,263	384,791
非流動負債	447,340	326,547
負債合計	918,603	711,338
<b>資本</b>		
資本金	93,242	93,242
資本剰余金	89,800	90,213
自己株式	△38,076	△38,056
その他の資本の構成要素	220,383	124,304
利益剰余金	1,266,322	1,175,626
非支配持分	157,625	112,089
資本合計	1,789,296	1,557,418
負債及び資本合計	2,707,899	2,268,756



# 会社情報

## ■ 会社概要

(2023年3月31日現在)

商号 住友金属鉱山株式会社  
Sumitomo Metal Mining Co., Ltd.  
本社所在地 東京都港区新橋5丁目11番3号  
創業 天正18年(1590年)  
設立 昭和25年(1950年)  
資本金 932億円  
従業員数 連結：7,330名

## ■ 取締役および監査役 ■ 執行役員

(2023年6月23日現在)

取締役会長 中里 佳明  
取締役社長 野崎 明\*  
取締役 肥後 亨\*  
松本 伸弘  
竹林 優  
社外取締役 石井 妙子  
木下 学  
西浦 完司  
常任監査役 (常勤) 今井 浩二  
監査役 (常勤) 野沢 剛志  
社外監査役 吉田 互  
若松 昭司

(2023年6月23日現在)

社長 野崎 明  
専務執行役員 肥後 亨  
松本 伸弘  
常務執行役員 金山 貴博  
吉田 浩  
大久保 仁史  
坂本 孝司  
小笠原 修一  
田中 勝也  
竹林 優  
宮本 邦彦  
執行役員 福田 英一  
岡本 秀征  
帆谷 和彦  
元木 徹  
佐藤 眞一  
川田 宗一  
丹羽 祐輔  
坂本 和昭  
松下 博彦  
服部 靖匡  
狭川 義弘  
矢野 三保子

注) \*印は、代表取締役です。

# 株式状況

## ■ 株式の状況

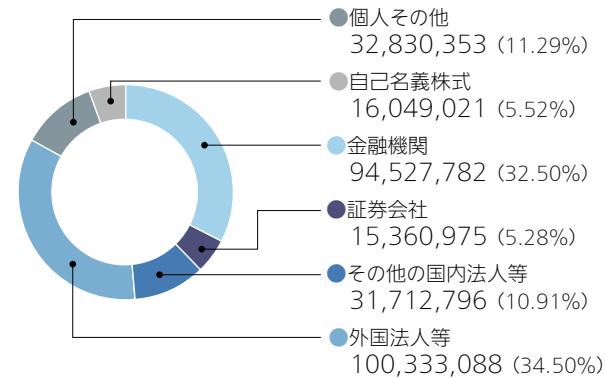
(2023年3月31日現在)

発行可能株式総数 500,000,000株  
発行済株式総数 290,814,015株  
株主数 58,107名

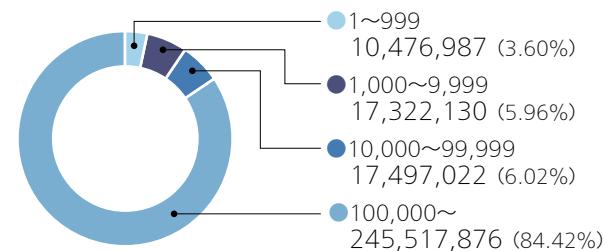
## ■ 株式分布状況

(2023年3月31日現在)

所有者別の状況 所有株数(株)



所有株式数別の状況 所有株数(株)



## ■ 株式メモ

### 事業年度

毎年4月1日から翌年3月31日まで

### 株主総会

定時株主総会／毎年6月  
臨時株主総会／必要の都度

### 資格基準日

定時株主総会／3月31日  
期末配当／3月31日  
中間配当／9月30日

### 株主名簿管理人および特別口座管理機関

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社

### 株主名簿管理人事務取扱場所

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
[郵便物送付先]  
〒168-0063  
東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
[電話照会先]  
0120-782-031  
[ウェブサイト]  
<https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/>



### 公告掲載方法

電子公告とする。ただし、やむを得ない事由により電子公告による公告をすることができない場合は日本経済新聞に掲載する。

### 株式に関するお届けおよびご照会先

証券会社に口座を開設されている株主様は口座のある証券会社宛に、特別口座に口座がある株主様は特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社証券代行部までお問い合わせさせていただきますようお願いいたします。

### 単元未満株式買取および買増のご請求について

株主様のご所有の単元未満株式(1~99株)を当社が買取らせていただく制度がございます。また、株主様のご所有の単元未満株式を単元株式とするため、必要な数の株式を買増する制度がございます。単元未満株式の買取および買増請求につきましては、上記「株式に関するお届けおよびご照会先」にお問い合わせのうえ、お手続きをお願いいたします。

### 配当金のお受け取り方法について

配当金のお受け取りにつきましては、ゆうちょ銀行または郵便局の窓口において配当金領収証と引換えにお受け取りいただく方法のほかに、より安全で確実な方法として、ご指定の銀行口座またはゆうちょ銀行の貯金口座へ継続的にお振り込みする方法がございます。また、証券会社に口座を開設されている場合は、証券総合口座等へのお振り込みも可能です。お振り込みをご希望される場合は、上記「株式に関するお届けおよびご照会先」にお問い合わせのうえ、お手続きをお願いいたします。

### 特別口座株式の振替手続について

株券電子化前に、証券保管振替機構をご利用されていなかった株主様(お手元に株券をご所有の株主様)の株式については、特別口座に記録されております。特別口座に記録されている株式は、株式市場で売買することができませんので、証券会社に株主様名義の口座を開設し、株式を振り替えることをお勧めいたします。特別口座に記録されている株式の振替を希望される場合は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社証券代行部までお問い合わせさせていただきますようお願いいたします。



## SMMニューズメール

住友金属鉱山のプレスリリースやお知らせを、  
メールで配信しています。

ぜひご登録ください。

ご登録は当社ウェブサイトから

[https://www.smm.co.jp/news\\_mail/](https://www.smm.co.jp/news_mail/)



## 当冊子についてのお問合せ

住友金属鉱山株式会社 広報IR部

〒105-8716 東京都港区新橋5丁目11番3号

TEL.03-3436-7705 FAX.03-3434-2215

<https://www.smm.co.jp/>

